

和歌山県白浜町臨海地区で初めて鳴いたミンミンゼミ

Hyalessa maculaticollis is singing for the first time at Rinkai, Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

和歌山県白浜町臨海地区では、毎年、季節に応じて様々な蝉が鳴く。まずハルゼミが文字通り春の季節の到来を告げ、一年で最初に鳴く。夏になるとクマゼミをはじめニイニイゼミ（久保田，2011）とアブラゼミが鳴き、秋が近づくとツクツクボウシが鳴いて、終に蝉の声は聞こえなくなる。

白浜町の山間部に行くと、ヒグラシやミンミンゼミが夏に鳴いているが、白浜町臨海地区の海岸部ではこれら2種は鳴いたことがない。しかし、2011年9月7日の午後（13:45）とその翌日の8日朝（8:40）に、ミンミンゼミ *Hyalessa maculaticollis* が1個体ずつ複数回鳴いた（同じ個体かどうかは不明）。これは、過去15年間で初めてのことなので記録しておく。

両日にはツクツクボウシも多数鳴いたので（クマゼミも鳴いたが、個体数は盛りを過ぎていて、ごく少数）、夏から秋への季節の端境期である。

今回の観察により、標高の高い所で生息している森林性のミンミンゼミが、標高の低い平地へ出現する動きが、今後もっと起こるかどうか注目される。この移動の理由は、区域の環境の変化によるものかもしれない。

引用文献

久保田 信. 2011. 和歌山県白浜町で2011年に初鳴きのクマゼミとニイニイゼミ（カメムシ目＝半翅目、セミ科） KINOKUNI, (80):30.

（くはた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所）